

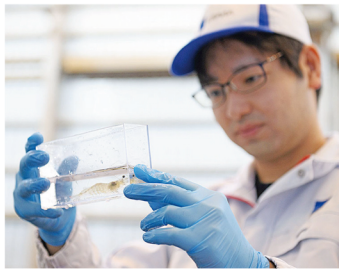
# 荏原、新規事業創出を加速

## 米バイオ新興企業に出資

たんぱく質生産、培養肉製造システムの効率化など、バイオ農業の開発も加速していく。

同社は25年までの中期経営計画「E-Plan 2025」で新規事業領域への投資を図り、新たな価値を創出していく計画で、外部パートナーなどと協業しながら「E-Vision2030」の「進化する豊かな生活づくり」の実現を目指す。

「E-Vision2030」の「進化する豊かな生活づくり」の実現を目指す。



エビの飼育試験も開始している

荏原製作所は、新たな社会課題に対応した新規事業創出に向けた取り組みを強化する。これまで陸上養殖、構造たんぱく質、培養肉関連などへの投資を行ってきたが、新たに植物工場を手がける米岡ベンチャー企業への出資も決めた。陸上養殖では育てた魚を加工、販売するまでに行っており、他社との連携も行いながら、マリン、バイオなど新たな事業領域への参入を図る。

## 陸上養殖システム構築へ

同社が新たに出資したのは、日本の農業技術を活用して革新的な植物工場を手がける米岡ベンチャー企業・Oishi Farm Corp. Oishi Farm (ニュー

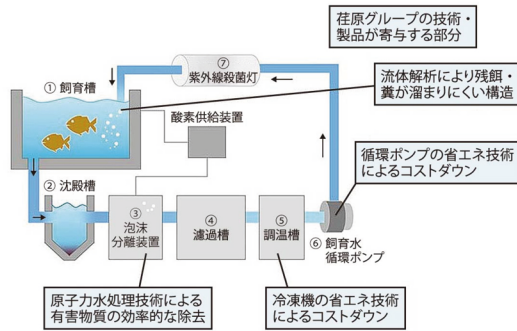
ジャーシー州)。Oishi は技術的に最も難しいが、日本の農業技術を活用して革新的な植物工場を手がける米岡ベンチャー企業・Oishi Farm Corp. Oishi Farm (ニュー

全閉鎖型植物工場で安定生産を実現している。浅見正明社長は「持続

可能で豊かな社会を実現するために求められ、新しい発想のもと当社技術が生かされる分野」を新規事業として注力していく方針を示しており、空気や水の流れをコントロールする流体制御技術、精密な熱・温度制御技術、装置機器設計ノウハウ、省エネ技術など」を生かしていく考え。

陸上養殖では、リージョンナルフィッシュユウの20年に資本業務提携を締結、水産物の品種改良技術とスマート養殖を組み合わせた次世代水産養殖システムに取り組んでいる。袖ヶ浦事業所内に試験設備を設置し、エビの飼育試験も開始しており、人口増による魚需要の増加、天然漁獲量の減少、海面養殖の拡大と適地不足などの課題解決に向けて完全閉鎖型の陸上養殖システムを構築する。

## 陸上養殖システムのイメージ



荏原グループの技術・製品が寄与する部分

流体解析により残餌・糞が溜まりにくい構造

循環ポンプの省エネ技術によるコストダウン

原子力水処理技術による有害物質の効率的な除去

冷凍機の省エネ技術によるコストダウン